

阪急長岡天神駅周辺整備基本計画推進委員会

第1回 議事録

日 時：令和8年1月23日（金）午前10時から午後0時15分まで

場 所：長岡京市役所8階 会議室801

出席委員：大庭委員長、佐伯委員、辻委員、鷹野委員、山添委員、橋本委員、八木委員、
福西委員、生駒委員、齊藤委員、山村氏（廣川委員の代理）、越委員、抱江委員、
北野委員、筒井委員、鎌田委員、井上委員

欠席委員：平尾委員、三好委員、浅田委員

庁 内：末永副市長、兒島理事、日高建設交通部長、上野都市計画課長、
坂出交通政策課長、鳥居公共資産活用推進室長、名和参事兼福祉政策室長

事務局：[まちづくり政策室] 柳沢室長、山田専門監、上田主幹、竹内主査
株式会社アール・アイ・エー 宮本次長、内田主任

会議の公開の可否：公開

傍 聴 者：4名

報道関係者：1名

会議次第：1. 開会

2. 案件

（1）阪急長岡天神駅周辺整備事業の検討経過について

（2）「阪急長岡天神駅西地区整備計画」について

3. その他

4. 閉会

配付資料：資料1 委員名簿・設置要綱

資料2 阪急長岡天神駅周辺整備事業の検討経過について

資料3 阪急長岡天神駅西地区整備計画について

1. 開会

・開会（以上、事務局より）

・中小路市長のあいさつ

委員長の選出

・委員会設置要綱第3条第3項に基づいて大庭委員を委員長に選出

・委員長あいさつ

・委員会設置要綱第3条第4項に基づいて佐伯委員を委員長の職務代理者に選出

2. 案件

（1）阪急長岡天神駅周辺整備事業の検討経過について

（2）「阪急長岡天神駅西地区整備計画」について

・案件（1）（2）それぞれ事務局より内容を説明後、質疑及び意見を聴取。

・以下、意見交換の要旨

(まちづくり全般について)

- ・長岡天神駅は、長岡京市の中でも要となるエリア。交通結節点として機能面で課題が色々あると感じた。そうした課題をどのように解消するか、そこに新しい価値をどのように付加するのかという観点から、西・東地区それぞれの役割分担も含めて議論していく必要があると思う。
- ・一番必要なのは、人口規模にあったまちづくりだと思う。例えば10万人になったら長岡京市のインフラはどうなるのか、上下水道のことも問題になると思う。これからマンションがどんどん建てばインフラ整備も大事になってくるので、人口が増えるのは良いことだが、インフラ整備を考えると大変だと感じる。
- ・長岡天神駅周辺整備への関心は高く、早く整備を進めてほしいという意見が多い。便利さを求めて引っ越して来られた方は、交通機関を使わなくても歩いて生活することができ、歳を重ねても便利に住めることを評価されていると思う。
- ・今回の整備がエリアの皆様、長岡京市の皆様にとって誇らしいと思えるようなあり方を追求していきたいと思う。いろいろな利害関係があるかもしれないが、未来志向で、どうすればこの長岡天神駅周辺がよりよいまちになるのか、そういう視点で、考えていければと思う。

(駅の東西のまちづくりについて)

- ・駅前広場等のまちづくりについて、鉄道の立体交差化の最大の効果というのは踏切の解消による渋滞緩和だけではなく、まちを分断している鉄道を上げることで人が行き来できるようになるということ。最近では鉄道の立体交差化による効果のメインになってきている。西地区を先行して計画していく中で、将来、駅の東西で人の行き来が活発になり、よりまちが良くなるということを意識しながら、それぞれを計画していくほうが良いと思う。西は西だけで完結、東は東だけで完結するのではなく、将来は東西のつながりができ、もっと人の流れができるということを想像しながら計画を取りまとめていくのが良いと思う。
- ・東西の分断がなくなることは感動的です。分断がなくなれば一体的なまちづくりができるのではないかと思う。

(駅前の商業・医療等について)

- ・人口規模に応じた店舗づくりをしなければシャッター街になってしまう。長岡京市は利便性が高くどこへでも行ける。大阪や河原町へも30分で買い物に出かけられ、洛西口には大きなイオンもできた。商売をする人にとって利便性が良すぎるのは、良いことであり、悪いことでもある。まちづくりは、いろいろな状況を判断しなければならないと常に思っている。
- ・医療の面では、駅施設内に医療機関が入ることで、例えばインバウンドが非常に増えている中、医療観光にも対応できるとも思う。JRが大雪で止まって電車が動かなかったこ

とがあった。災害発生時に、医療従事者が活動できる拠点的なものが駅前であれば、一時的なものであるにしても機能するのではないか。長岡京市内でも医師の高齢化が進み閉院が増えている。駅にクリニックがあれば、通勤、通学の途中で立ち寄ることも考えられるのではないか。

- ・西地区は高齢化が深刻で、10年後に今のお店が残っていないのではないかと感じている。大事なことは、どうやって次の世代に継承していくか。お店がなくなってしまうのか、どういう形であれば残すことができるのか、高齢化によってお店がなくなっていく時代の中で、商店街の生き延び方が大事になってくる。長岡京市の商業の行く末について考えなければならない時代に入ってきている。

(駅前広場等について)

- ・駅前再開発や、都市の再生を進めているエリアでは、官民連携が重要なテーマ。せっかく作った価値のある環境をどのように持続的に維持していくか。管理やマネジメントが大事。そのためには、官民がそれぞれどう役割を果たしていくか、事前に検討していくべき。
- ・駅前広場の利用について、何らかのルールづくりが必要。地元の地権者組織で計画を検討されている中で、エリアマネジメント組織を考えてはどうかと思う。広場や緑地の管理について、長岡京市が直接やるのではなく、地域の方に協力していただいて維持管理するという方法も考えられる。全てを公費でやるのではなく、市民、長岡京市、地域の事業者の皆さんが一緒になって長岡天神の駅前広場を守っていくことにつながると良いと思う。
- ・エリアをどうマネジメントしていくという点で、単に美化を維持するだけでなく、賑わい、活性化という視点も重要。関係主体が協力し合って貢献していくことが重要。エリアマネジメントの取り組みが進んでおり、サイネージなどの広告収入を活用しながら賑わいづくり、イベント開催など地域の方と活動しているところもある。
- ・商工会では、JR長岡京駅の東口で、長岡京市が人工芝を整備し、テーブルを設置するなどして、今後5年間、ほこみち制度を用いて管理をする。西地区でも商店会や地域団体と一緒にそういった制度も考えていただければと思う。
- ・70年間手つかずの開田地区の事業が、ここへ来てようやく動き出した。西地区の再開発で出来あがるものが、次の100年につながっていく必要があると思う。例えば、駅前広場の下に大きな地下空間を作ってはどうかと思う。大きな災害が起こった時にどうするかを考えると、大阪北部地震でもたくさんの方がまちを歩かれ、一時避難を経験した。駅前に、大きな地下空間を作れば、普段は雨天時でもイベントを開催できるようになり、地元の商工会の賑わいにもつながると思う。特急停車駅なので、広域から人を集めることもできると思う。
- ・せっかくできたものが良いものになるためにも、エリアマネジメントの観点が必要。私自身の知見やノウハウを出して、長岡天神駅周辺地域のために尽力できればと思う。
- ・沿線の特急停車駅である淡路、茨木、高槻の駅前ではビルが建つ中で、この計画では、視

点場を設けて景観を守り、長岡天神らしさを維持するという話があった。委員会の中で良い意見が出て、この計画がしっかりとしたものになるよう努力していきたい。

(駅前交通環境等について)

- ・年齢を重ねると、アクセスの問題で難儀をすることがある。阪急電鉄の連続立体交差事業と連携をとった形でこの事業が進むことを念願する。この駅は長岡京市のどこからでもアクセスしやすい場所だが、道路の構造、特に歩道が脆弱であると感じている。今回のまちづくりの中で解消できればと思う。
- ・観光バスは、交通渋滞の発生の原因にもなっており、その点も勘案できれば良いと考えている。
- ・長岡天神駅一帯は、交通量が多く、東西を結ぶ道路は広いが、南北へ抜ける道は昔から6m未満となっており、少しでも早く拡がれば良いと思う。
- ・長岡天神駅周辺は、道路が狭い、緊急車両が入れない、安全に行き来がしにくいという意見もあるので、それらが解消できる事業になっていけばと思う。
- ・駅周辺の賑わいが増えて、移動需要が増えることを願っている。アゼリア通りはバスの遅延発生が多い地域であり、この一帯の交通状況が改善し、バス運行の生産性向上につながれば良いと考えている。
- ・いろいろな沿線を見て、まちづくりを進めていく中では、長岡天神駅は最大規模だと思う。駅周辺の活性化が進むことへの期待は高い。期待だけでなく、駅周辺のまちづくりに協力できればと思う。
- ・長岡京市は特急停車駅の駅前を大きく変える計画とセットでやるということで期待をしている。息の長い事業になるので、将来を見据えた計画と一緒に議論ができればと思う。
- ・今後、補助幹線道路がアゼリア通りまで整備されるということで、より安全で円滑な交通を確保できる道路となるよう協議していきたい。

(3) その他

- ・広報紙2月号、SENSE NAGAOKAKYO、Voice NAGAOKAKYOについて説明（事務局より）

3. 閉会

- ・次回5月頃を目途に開催予定（事務局より）

以上